

河川管理者と鉄道管理者の若手技術者交流会

第1回交流会を開催

「流域治水」の推進にあたっては、様々な関係者との連携が必要であり、鉄道事業者との連携強化も必要です。

このため、現場見学等を通じて相互理解を深めるとともに、知識や経験、新たな技術的な取り組みなどの情報を共有することで、土木技術者としての研鑽にも資することを目的に、河川管理者と鉄道管理者の若手技術者交流会を開催しました。

第1回は近畿地整主催で淀川水系の治水システムをテーマに現地をご案内し、意見交換を行いました。

概要

- 開催日：令和3年12月23日（木）
- 参加者：鉄道管理者（JR西日本）13名、河川管理者（河川部、琵琶湖、淀統）6名
- テーマ：淀川水系の治水システムについて
（瀬田川洗堰の管理、大戸川ダムの調査設計、天ヶ瀬ダム再開発事業の施工監理）



JR西日本参加者の感想の一例

○交流会に参加して

- ・事業や計画の対象とする範囲の広さなど、スケールの大きさを実感した。
- ・自然を相手に絶妙なバランスで成り立っている治水対策と感じた。
- ・占有者の立場をわきまえないかと思う一方、鉄道事業者としても責務もある。双方の立場を尊重して良好な関係性を保っていききたい。

○流域治水への鉄道事業者の参画について

- ・流域治水の考え方を本日知ることが出来、鉄道事業者として何が出来るか考えるきっかけが出来たと思う。
- ・駅構内でのアナウンスなど、鉄道事業者の放送網を活用することも考えられる。
- ・鉄道事業者が参画することで、計画運休を行う判断材料となる情報を得られる可能性がある。
- ・浸水リスクの高い地域への旅客輸送を事前に止めるようなことも、乗客の命を預かる事業者としては考えなければならないように思う。人の動きを止めるツールとして計画運休を活用できれば…

【問い合わせ先】

国土交通省 近畿地方整備局 河川部 河川計画課

